

I . 共同研究の目的と概要

共同研究の目的と概要

1. 共同研究の背景と目的

古代難波に造営された前期・後期難波宮の特質を解明するためには、同時代の日本都城および東アジア都城との比較研究が欠かせない。古代日本の都城は、(天皇の居住空間である)内裏と(官人の政務・儀式空間である)朝堂院からなる宮を中心に、周囲に(官人の居住空間である)京を配していた。これらはそれぞれが時代や場所によって独自の特徴を有し、一律に論じることができないことから、前後の時期、あるいは地域を超えた比較検討によって、それぞれの歴史的位置付けを明らかにしていく必要がある。

そこで本研究では、難波宮の特質解明の一端として、最新の発掘成果や文献史料に基づきながら、古代日本および東アジア都城の空間配置、機能・用途、造営過程などを幅広く収集し、難波宮との比較を行うことで、そこに認められる差異や特徴・特質を多面的に検討することを目的とする。本報告書では4編の論文と1編の報告を収録するが、これらはそのような見地から検討を行なった成果である。

2. 研究期間

令和2年(2020)4月～令和5年(2023)3月まで。

3. 研究担当者

大阪歴史博物館：村元健一(中国史学)、李陽浩(総括・建築史学)

大阪市文化財協会：積山洋(考古学：共同研究者)

4. 活動の概要

研究当初に掲げた各担当の研究テーマは以下の通りである。

村元健一：東アジア都城の比較研究

李陽浩：東アジア宮殿建築の比較研究

積山洋：東アジアからみた難波宮の国際的性格の解明

上記テーマに即して、各自が適宜資料調査や発掘調査現場視察などを実施した。主な現地踏査としては奈良県菅原遺跡、奈良県藤原宮跡の発掘調査現場の視察などがある。

また、前期難波宮の画期性を考える上で極めて重要な文字資料である「玉作五十戸俵」木簡の年代分析を実施し、この木簡が古代のものである可能性が高いことを確認した。

さらに最新の調査・研究成果を広く収集する必要から、都城制研究会と共同で研究会を開催した(年4回)。発表テーマ・講師は以下の通りである。

なお、令和2(2020)年6月～令和3(2021)年9月までの6回分については、コロナウィルス

感染症拡大防止のために開催することが出来なかった。

- ・令和2（2020）年6月～令和3（2021）年9月

コロナウィルス感染症拡大防止のために中止

- ・令和3（2021）年12月25日

報告1：廣瀬 覚氏「藤原宮大極殿院の構造および造営過程に関する再検討―北門・大極殿後方東回廊の検出とその意義をめぐって―」

報告2：南 秀雄氏「延暦四年の三国川・淀川治水事業の研究」

- ・令和4（2022）年3月19日

報告1：鈴木一義氏「飛鳥京跡苑池の構造と変遷―これまでの発掘調査成果から―」

報告2：李陽浩「高津宮の位置をめぐって：堀江開削記事の一解釈」

- ・令和4（2022）年6月18日

報告1：豊田裕章氏「後鳥羽上皇の水無瀬離宮（水無瀬殿）の構造について―離宮以後の問題も含めて―」

報告2：積山洋「前期難波宮の朝堂と朝庭」

- ・令和4（2022）年9月17日

報告1：渡辺健哉氏「元代の三都（大都・上都・中都）とその機能―「移動する王権」をめぐる予備的考察」

報告2：田中裕子氏「難波宮跡 東方官衙地区の発掘調査について―NW12―3次調査からみる後期難波宮期の区画施設の検討―」

- ・令和4（2022）年12月24日

報告1：西本昌弘氏「屯倉から王宮・寺院へ―小墾田・桜井・難波の屯倉を事例として―」

報告2：積山洋「宗廟と社稷―日本古代都城が拒否したもの―」

- ・令和5（2023）年3月18日

報告1：古川匠氏「恭仁宮中枢部の構造とその変遷―後期難波宮・平城宮との比較―」

報告2：村元健一「中国南北朝時代の都城と仏教寺院について」

最後に、この期間中に発表された関連論考・調査報告、学会発表などを挙げておく。（李陽浩）

【令和2（2020）年度】

【論考】

積山洋「難波羅城と天武朝難波宮の外郭」『難波宮と古代都城』同成社、p. 185-194、令和2年6月

積山洋「書評 歴史・民族・考古学論攷」『古代文化』第72巻第1号、古代学協会、p. 140-142、令和2年6月

積山洋「大阪市の街角博物館」『2017年臺日考古論壇會議實録』台湾宜蘭縣立蘭陽博物館、p. 55-68、令和2年12月

村元健一「魏晉洛陽宮城の構造」中尾芳治編『難波宮と古代都城』同成社、pp. 776-789、令和2年6月

村元健一「朝鮮都城における中国都城の影響 一条坊制の導入をめ

ぐって」『柳本照男さん古稀記念論集刊行会『柳本照男さん古稀記念論集―忘年之交の考古学―』、pp. 203-212、令和2年12月

李陽浩「難波宮」『講座 畿内の古代学 第Ⅲ巻 王宮と王都』雄山閣、p. 62-83、令和2年11月

李陽浩「難波宮：前期難波宮の建築的特質とその源流・末流」『難波宮と藤原宮』帝塚山大学考古学研究所・附属博物館、p. 2-14、令和3年3月

【学会発表・講座など】

積山洋「考古学」府立大手前高校集中セミナー、府立大手前高校、令和2年12月

積山洋「豊臣氏大坂城の惣構えと真田丸」ミュージアム連続講座

I. 共同研究の目的と概要

2020 探訪大坂城とその周辺、大阪市立難波市民学習センター、
令和3年2月

李陽浩「南禅寺大殿のゴヒラ角柱について」『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(60)』日本建築学会、令和2年6月

李陽浩「古代建築の接地面積について」『日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠(2020)』日本建築学会、令和2年7月

李陽浩「古代宮殿・都城の造営と宗教儀礼施設との関係性について」『東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究』、令和2年8月

李陽浩「令和元年度 大阪市内の発掘調査・報告について」「大阪の歴史を掘る 2020」講演会、大阪歴史博物館・大阪市文化財協会、令和2年10月

【令和3(2021)年度】

【論考】

積山洋「解題 松井章氏の牛馬の考古学」『松井章著作集 動物考古学論』新泉社、p.173-179、令和3年6月

積山洋「難波宮」『歴史家の案内する大阪』文理閣、p.12-17、令和3年10月

積山洋「古代紀淡海峡周辺の塩業と漁業」『シンポジウム「紀伊半島をめぐる海の道と文化交流」予稿集・論考集』紀伊風土記の丘、p.87-92、令和3年11月

村元健一「長安周辺の西魏・北周墓群について」『郵政考古紀要』75号、pp.14-45、令和3年12月

【学会発表・講座など】

積山洋「古代紀淡海峡周辺の漁業と塩業」特別展「海に挑み海をひらく」連続講座、紀伊風土記の丘、令和3年10月

積山洋「考古学」府立大手前高校集中セミナー、府立大手前高校、令和3年12月

積山洋「前期難波宮の朝堂院を考える」金曜歴史講座、令和4年1月

村元健一「南北朝時代における都城と仏教寺院のかかわりについて」東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究、令和3年8月

村元健一「都城史における曹魏洛陽の画期性」シンポジウム「東アジア比較都城史研究の今」令和4年3月27日

村元健一『『聖徳太子』と難波』クラブツーリズム「古代史1 日学校 in 大阪歴史博物館」、令和3年10月

李陽浩「接地面積からみた東大寺大仏殿の変遷」『日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠 2021』、令和3年9月

李陽浩「古代難波の地形・地割と寺院との関係性についてのノート」『東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究』、令和3年11月

李陽浩「難波宮・京の祭祀空間に関するノート：造営と水辺の観点から」『東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究』、令和4年2月

李陽浩「高津宮の位置をめぐって：堀江開削記事の一解釈」、都城制研究会、令和4年3月

【展示】

特集展示「古代の都難波京」会期：令和3年5月19日～7月12日

【令和4(2022)年度】

【単著】

村元健一『日本古代宮都と中国都城』同成社

【論考】

積山洋「難前期難波宮の研究史 その一」『大阪市文化財協会 研究紀要』第24号、p.53-64、令和4年3月

村元健一「日本複都制の起源について―天武・聖武朝を中心に―」ファム・レ・フィ編『日本研究論文集 日本の都城と東アジア』、pp.17-32、令和4年8月

村元健一「中国 南北朝時代の王朝祭祀と都城」『アジア遊学 280 都市と宗教の東アジア史』280号、pp.8-27、2023年2月

【学会発表・講座など】

積山洋「四天王寺と古代の難波」四天王寺仏教文化講演会、四天王寺本坊、令和4年4月

積山洋「前期難波宮の朝堂と朝庭 その前史を探る」都城制研究会、大阪歴史博物館、令和4年6月

積山洋「土器製塩の始まりから終焉まで」西庄遺跡研究会、和歌山県文化財センター、令和4年6月

積山洋「発掘調査で見えてきた大坂城」堺SS塾第173回、堺市総合福祉会館、令和4年9月

積山洋「御勝山古墳の謎」なにわの宮リレーウォーク 2022、大阪歴史博物館、令和4年11月

積山洋「考古学」府立大手前高校集中セミナー、府立大手前高校、令和4年12月

積山洋「宗廟と社稷―日本古代都城が拒否したもの―」都城制研究会、大阪歴史博物館、2022年12月例会

積山洋「塩の考古学ことはじめ」考古学ことはじめ第23回、大阪市内西区民センター、令和5年1月

積山洋「21世紀の前期難波宮研究」大阪歴史学会考古部会、阿倍野市民学習センター、2023年2月

積山洋「山之内・遠里小野遺跡の発掘調査」大阪公立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会 博学連携講座 すみよし南部の10万年、令和5年3月

村元健一「前期難波宮の源流を探る」「なにわの日」講演会、令和4年7月

村元健一「大都市に埋もれた古代宮殿―難波宮」2022年度 第1回・関西大学東京泊園塾「難波・大阪のはじまりは、この台地から―難波宮と大阪天満宮―」、令和4年10月

村元健一「中国南北朝時代の仏寺と陵寢」佛教史学会大会、令和4年11月

李陽浩「岩橋型石室におけるゴヒラ石梁について」『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(62)』、令和4年6月

李陽浩「接地面積からみた大仏様建築の特徴：浄土寺浄土堂、東大寺南大門を例に」『日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠 2022』、令和4年9月

李陽浩「前期難波宮の謎を考える：内裏・朝堂院・八角殿を中心に」『令和4年度 なにわ歴博講座』大阪歴史博物館、令和5年2月